

目標の共有と 他者を意識した学びについて



上越教育大学 学習臨床コース
学部4年 杉本 慶子



0 . 本日の発表内容

- 1 . 研究の背景と目的
- 2 . 調査の概要
- 3 . 目標設定へのアプローチ
- 4 . 分析の視点
- 5 . 分析の結果と考察
- 6 . 結論
- 7 . 今後の課題

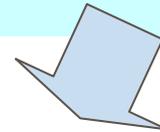
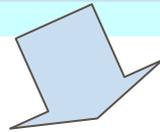
1. 研究の背景と目的

効果的な目標共有の方法とは！？

先行研究

西川(2002) 子ども集団の目標とする
島村(1986) 教師による明確化
小林(1986) 子どもの個人目標設定

西岡・西側(1996)
集団決定の効果



目的

子どもが目標設定に参加することによって目標共有が行われ
学習が成立することを明らかにする

2. 調査の概要

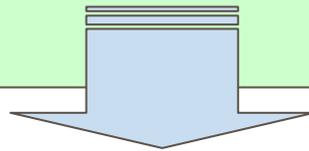
- **調査時期:** 2003年10月15日～24日
- **調査対象:** 新潟県内公立小学校5年生1クラス
- **授業内容:** 国語7時間

前時まで環境問題に関する説明文を二つ読み終わり、本単元「子ども環境会議を開こう」では身の回りの環境問題についてグループごとに調べ学習をし、発表会を行う。

- **記録方法:** VTRとICレコーダ
2・4・6時間目と単元終了後にアンケート

3. 目標設定へのアプローチ

- 1 教師が司会をし、グループごとに話し合う。
- 2 グループで意見がまとまったら子どもたちが黒板に書く。
- 3 グループごとに出てきた意見を理由とともに発表し、全体の場で決定する。



< 学習目標 >

学校の環境問題についてこのクラスのみんなで調べたことを分かり合って少しでも改善していこう

4 . 分析の視点

< 3つの分析の視点 >

- 1 集団決定した学習目標に対する子どもたちの意識について
- 2 「評価・アドバイス」の実態について
- 3 個人の目標設定について

5 . 分析の結果と考察

< 3つの視点とその結果について >

- 1 集団決定した学習目標に対する子どもたちの意識について
- 2 「評価・アドバイス」の実態について
- 3 個人の目標設定について

5. 分析の視点1

— 集団決定した学習目標 —

< 目標の集団決定 >

満足度	よかった	まあよかった	あまりよくな かった	よくなかった
人数	16	8	0	0

理由

- ・ みんな意見を出し合って決めたから。
- ・ みんなで決めたことだから良かった。

全ての子どもが
「他者」を意識

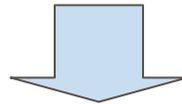
目標設定の場に参加し、「他者」と共に集団決定したことに高い満足を示している

5. 分析の視点1

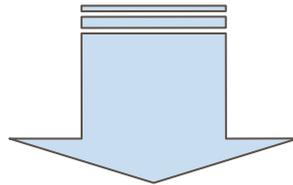
— 集団決定した学習目標 —

< 学習方法決定 >

教師「各グループで一番能率的だと思える方法でまとめてください」



子どもたちが自由に学習方法を選択できる状況



全てのグループが、目標を意識してまとめる方法を決定している。

5. 分析の視点1

— 集団決定した学習目標 —

標—

< 学習方法決定 >

A : 紙芝居をやる—

B : あ—それ、紙芝居あったんだけどさあ—、けっこう見にくいんだよ

:

B : 劇のほうはただ大用紙にまとめるだけだとなんか

C : わかんないっていうか

B : わかんないっていうかさ、大用紙にばかりやってさ—劇のほうは—

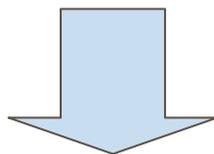
D : どっちがはっきりできるかな—

5 . 分析の視点1

— 集団決定した学習目標 —

< 学習方法決定 >

「見にくい」「わかんない」「はっきりできる」



(学習目標)

学校の環境問題についてこのクラスみんなで調べたことを
分かり合って少しでも改善していこう

子どもたちが意識している目標とは、 集団決定した学習
目標の内容に一致している！

5. 分析の視点1

— 集団決定した学習目標 —

A : これ練習用紙でいいよー

B : だーめー

A : 練習

B : 裏にかいたのとこっちにかいたこっちがいいか、考えるの

A : 練習用

C : もったいないって言ってるや

D : そうだよー

C : 悪いやつー、ゴミを増やすのはもったいないと思うなら自分から紙間違えるなよ

:

D : 調べてることとやってることが全然違う

他者が目標からずれると修正

他者に目標を意識させる

5 . 分析の視点1

— 集団決定した学習目標 —

< 結果 >

子どもたちは共通の目標を意識している。

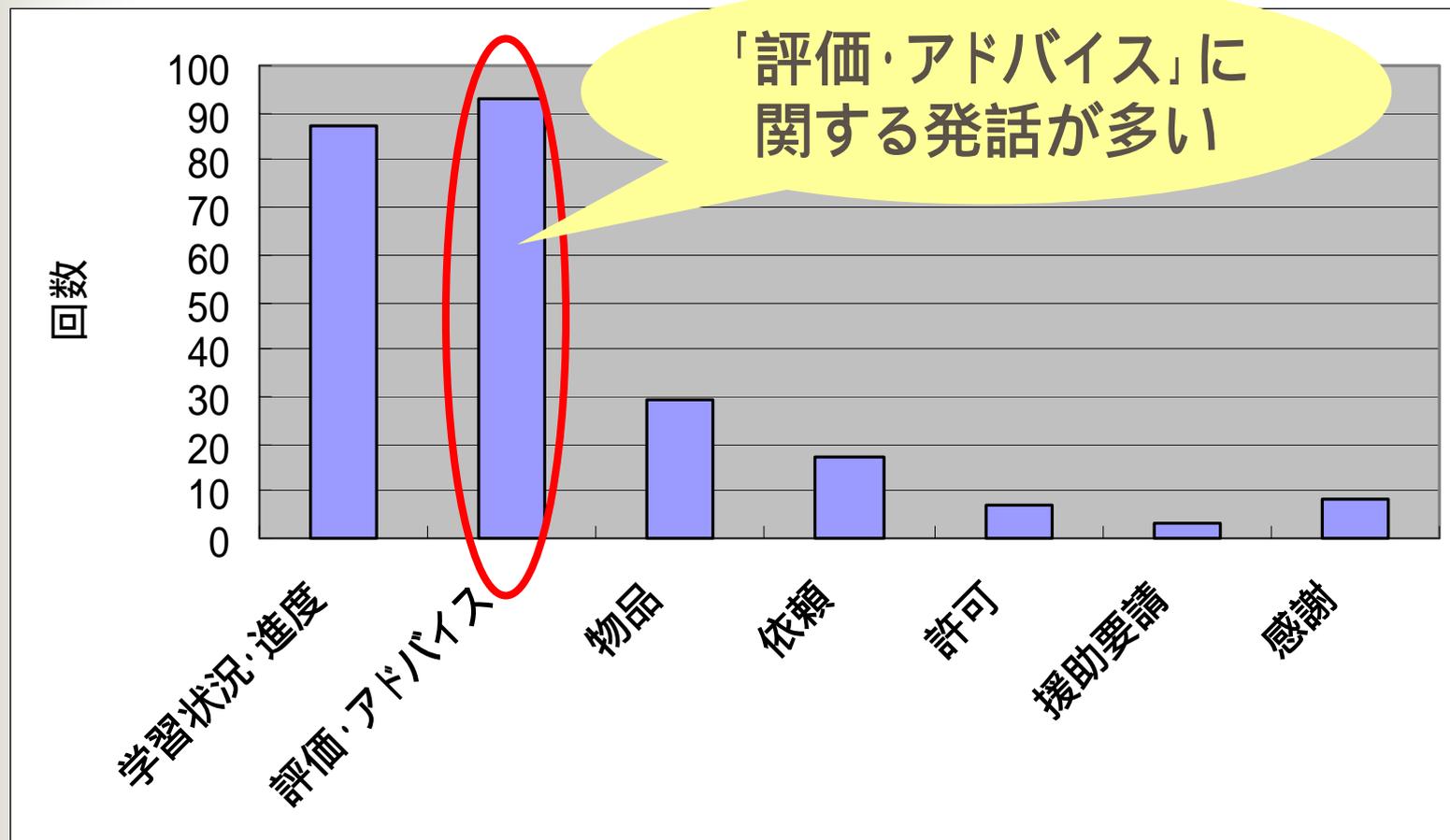
自分だけでなく、他者にも共通の目標を意識させている。

5 . 分析の結果と考察

< 3つの視点とその結果について >

- 1 集団決定した学習目標に対する子どもたちの意識について
- 2 「評価・アドバイス」の実態について
- 3 個人の目標設定について

5. 分析の視点2 —評価・アドバイス—



5 . 分析の視点2 —評価・アドバイザー—

他者に求める評価・アドバイス

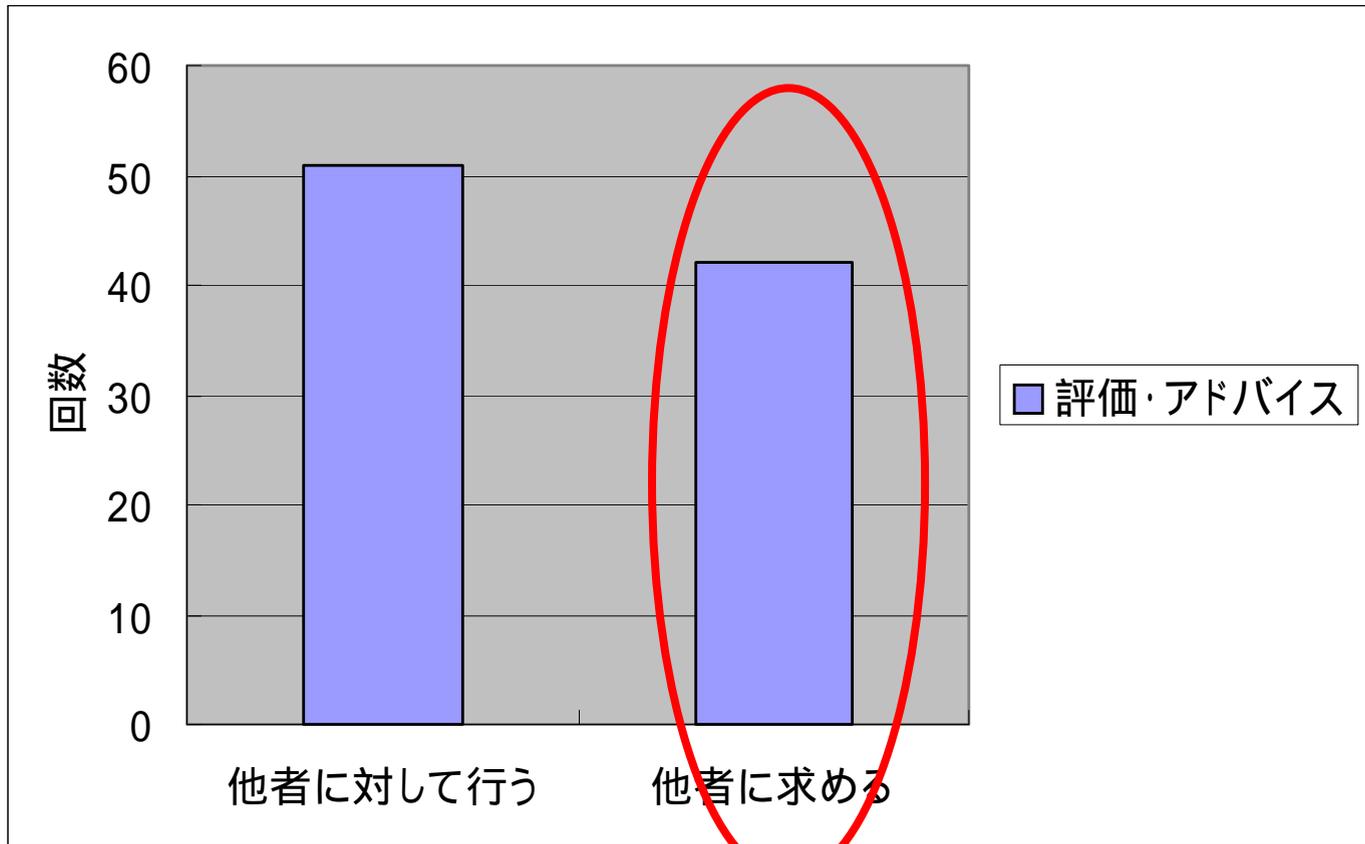
(例)「この絵, どうかなー?」

他者に対して行う評価・アドバイス

(例)「もう少し字を大きくしないと見えないよ」

5 . 分析の視点2 ー評価・アドバイザーー

評価・アドバイスに関する発話



5. 分析の視点2

—評価・アドバイザー—

他者に求める評価・アドバイス

(先行研究)

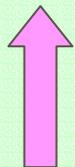
橋本(2002)

「教師—子ども」「子ども—子

橋本(2002)

評価は「教師」に求める
ことが多い

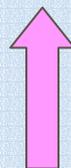
教師 = 「評価者」



評価・判断の会話

子ども

子ども = 援助者・協力者



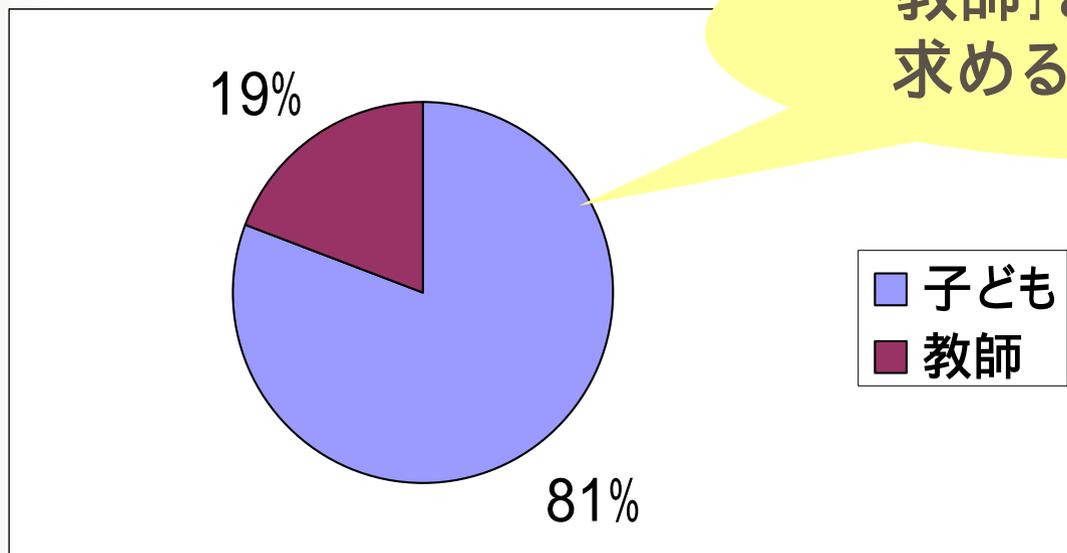
具体的な方法や相談

子ども

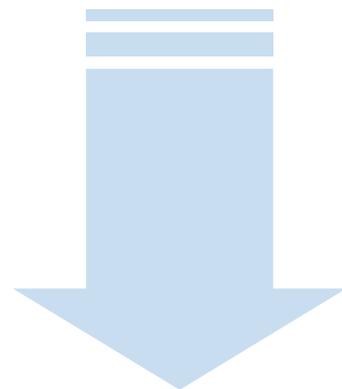
5. 分析の視点2

ー評価・アドバイザーー

他者に求める評価・アドバイス



「教師」よりも「友達」に求めるほうが多い！



子ども同士で評価・アドバイスを行えるという実態

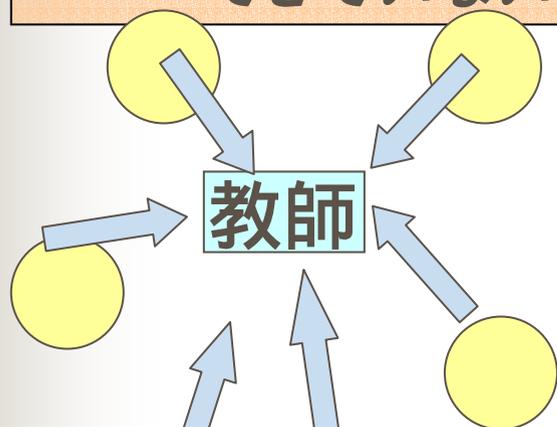
= (分析1より) 共通の目標を意識しているため

5 . 分析の視点2

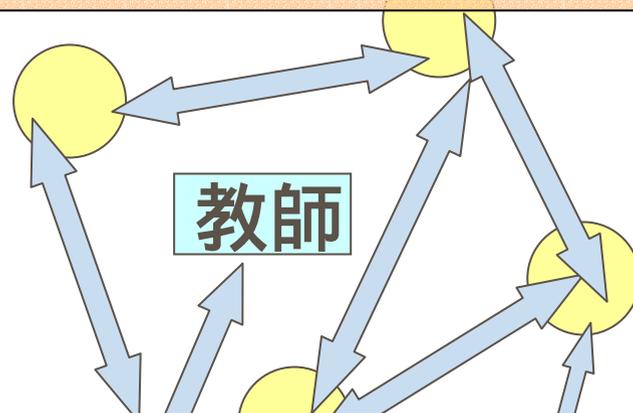
ー評価・アドバイザーー

他者に求める評価・アドバイス

目標の共有が
できていない場合



目標の共有が
できている場合

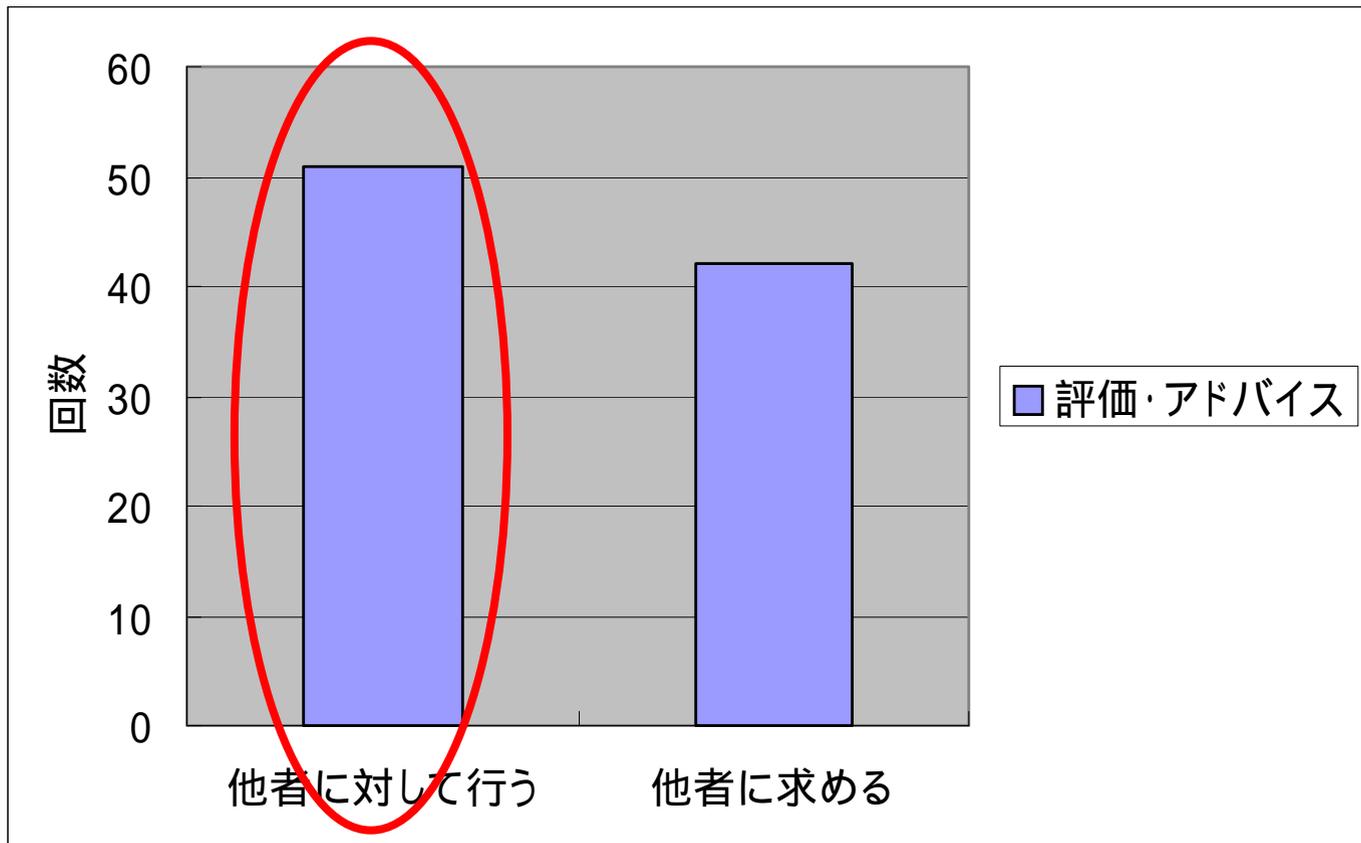


一人ひとりが他者に「評価・アドバイス」される回数が増え、子どもたちの学びが発展するきっかけが生まれる。

5 . 分析の視点2

ー評価・アドバイザーー

評価・アドバイスに関する発話

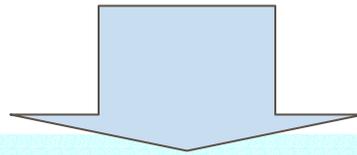


5 . 分析の視点2

ー評価・アドバイザーー

他者に対して行う評価・アドバイス

相手の学習状況を把握することで初めて他者に対する評価・アドバイスが生じている。



<どのように他者の学習状況の把握しているのか>

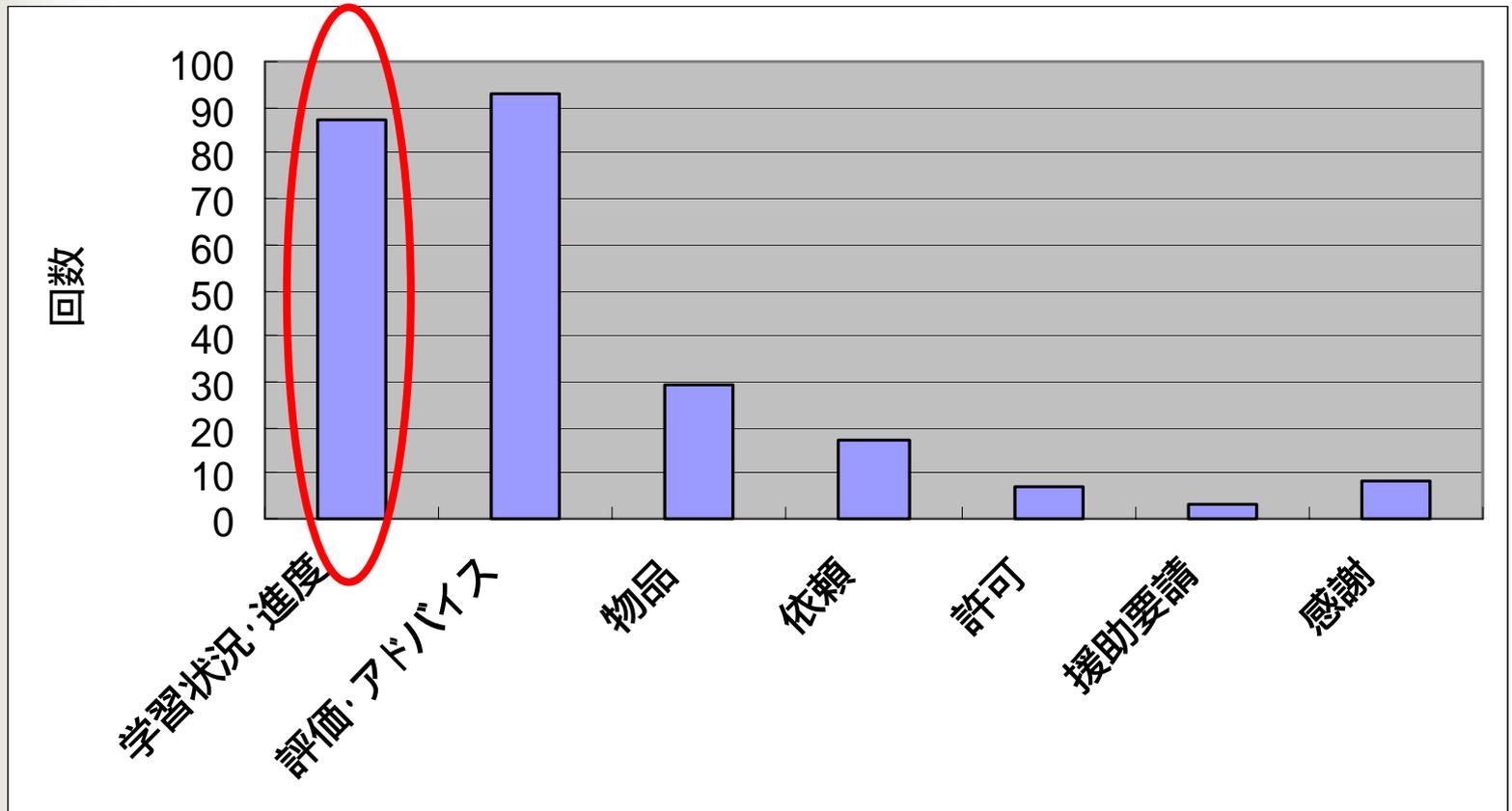
発話による2種類の方法

見る (のぞきこむ / ちらっと見る)

5 . 分析の視点2

ー評価・アドバイザーー

他者に対して行う評価・アドバイス



5 . 分析の視点2

ー評価・アドバイザーー

他者に対して行う評価・アドバイス

< 学習状況・進捗に関する発話 >

相手に直接聞く

特定のメンバーに向けられた発話

(例)「何つくってんのーBたちはー？」

自ら可視化する

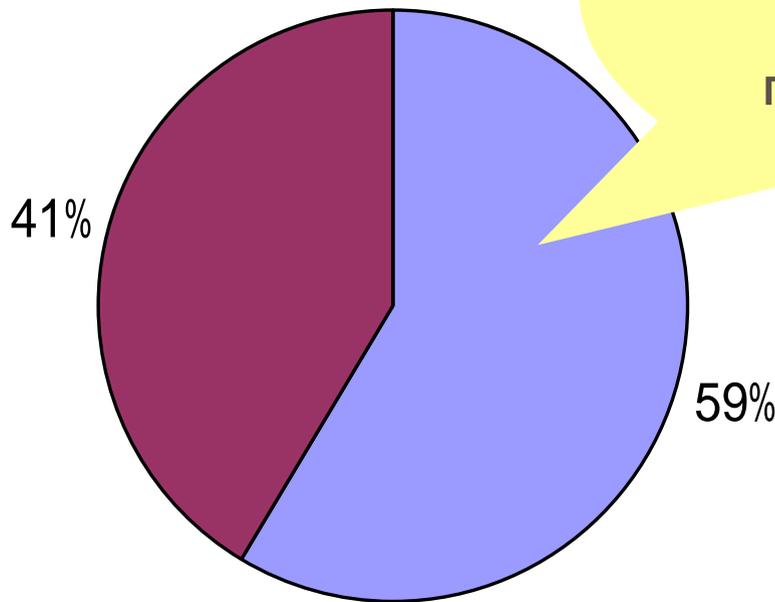
声が聞こえる不特定多数のメンバーに向けられた発話

(例)「赤ペンの絵, 変になっちゃった」

5. 分析の視点2

ー評価・アドバイザーー

他者に対して行う評価・アドバイス



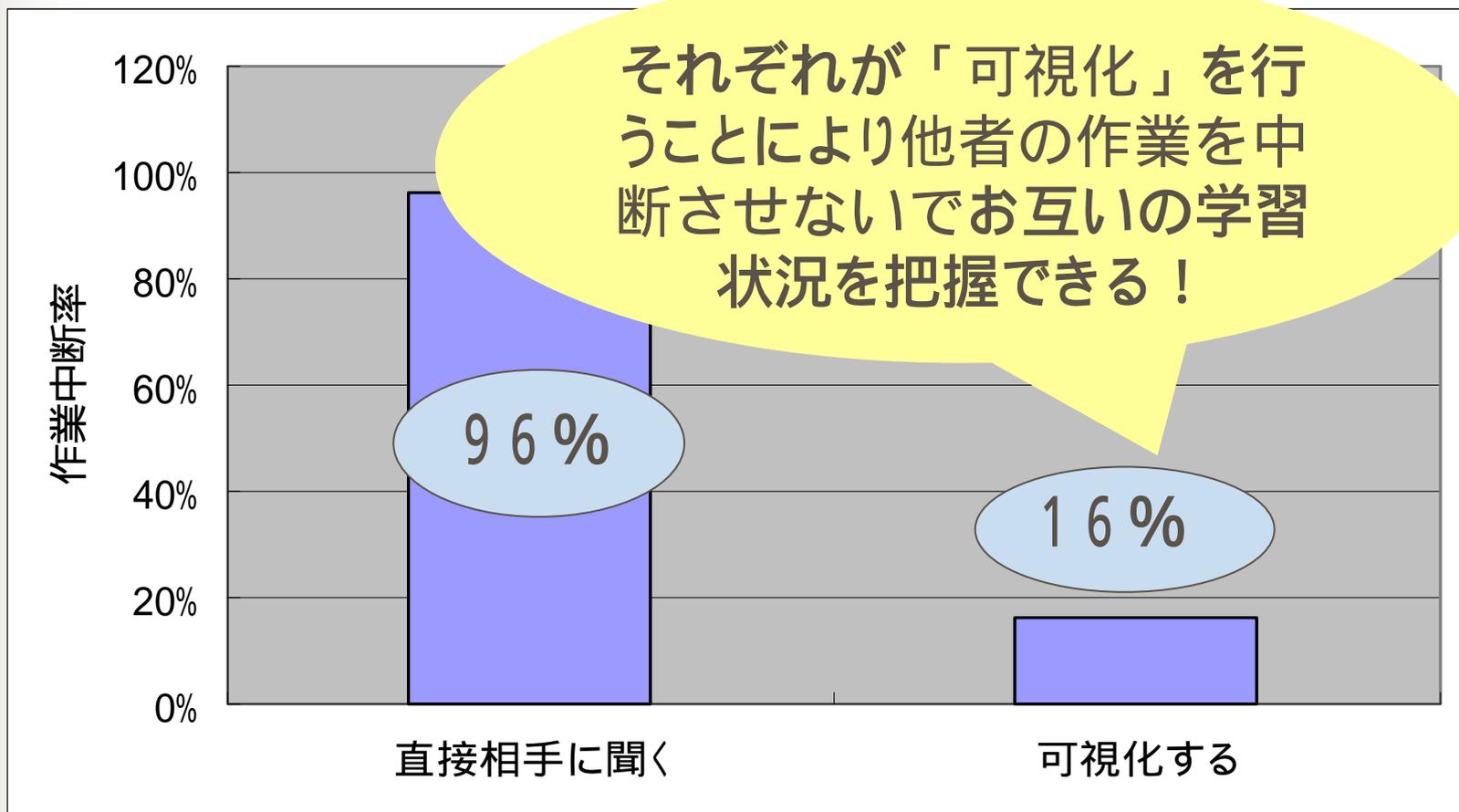
「他者の学習状況を聞く」だけでなく、自らの学習状況・進度を「可視化」する発話が多い！

- 自ら可視化
- 直接相手に聞く

5. 分析の視点2

ー評価・アドバイザーー

他者に対して行う評価・アドバイス



5 . 分析の視点2

ー評価・アドバイザーー

他者に対して行う評価・アドバイス

< 学習状況の把握方法 >

お互いに学習状況を「可視化」しあう

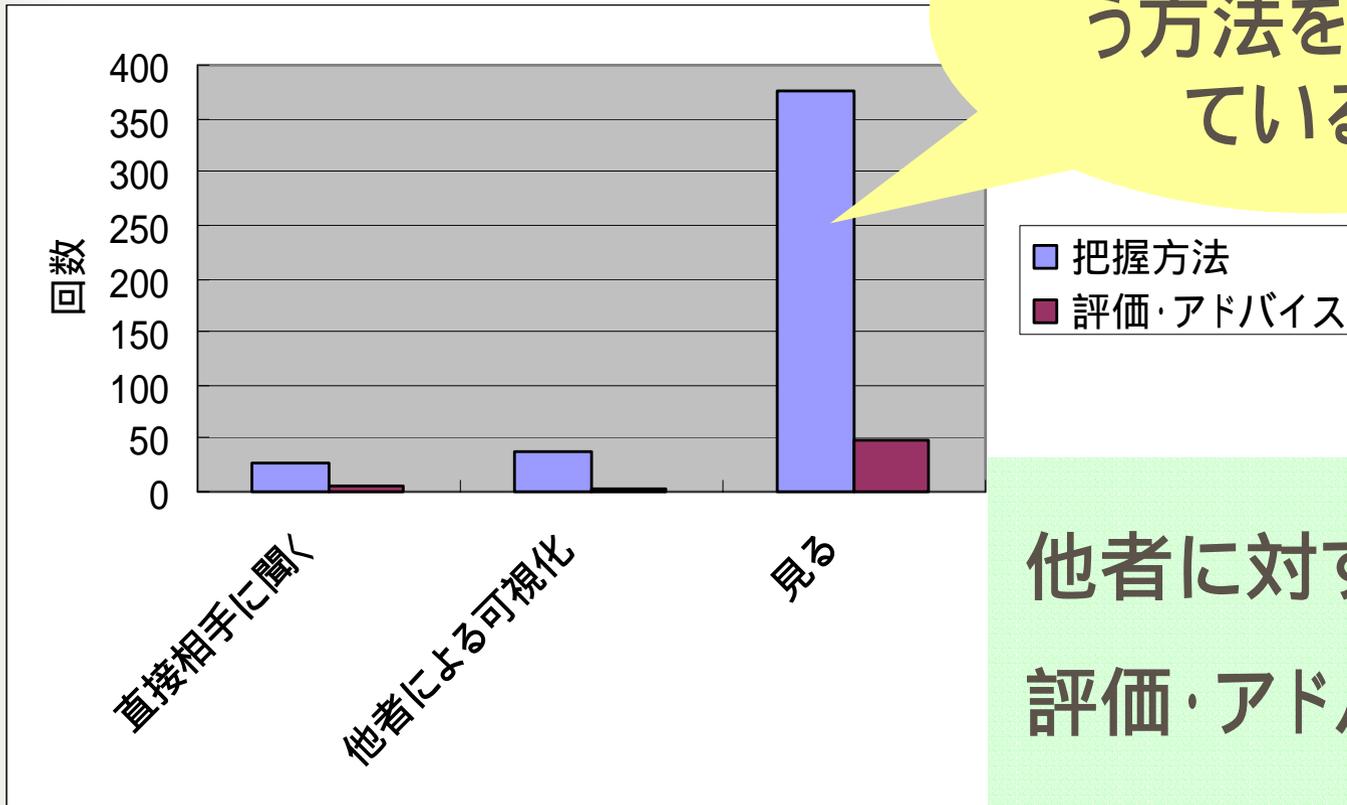
他者に学習状況を「直接聞く」

他者の学習状況を見る (のぞきこむ / ちらっと見る)

5 . 分析の視点2

ー評価・アドバイザーー

他者に対して行う評価・アドバイス



特に「見る」という方法を多用している！

他者に対する
評価・アドバイス

5 . 分析の視点2 ー評価・アドバイザーー

< 結果 >

他者に求める評価・アドバイス

「教師」よりも「友達」に評価・アドバイスを求めることが多い

他者に対して行う評価・アドバイス

他者の学習状況を把握する(可視化 / 直接聞く / 見る)ことによって初めて評価・アドバイスが生じている

5 . 分析の結果と考察

< 3つの視点とその結果について >

- 1 集団決定した学習目標に対する子どもたちの意識について
- 2 「評価・アドバイス」の実態について
- 3 個人の目標設定について

5 . 分析の視点3 ー個人の目標設定ー

次時に授業がある場合

2・4・6時間目にアンケート

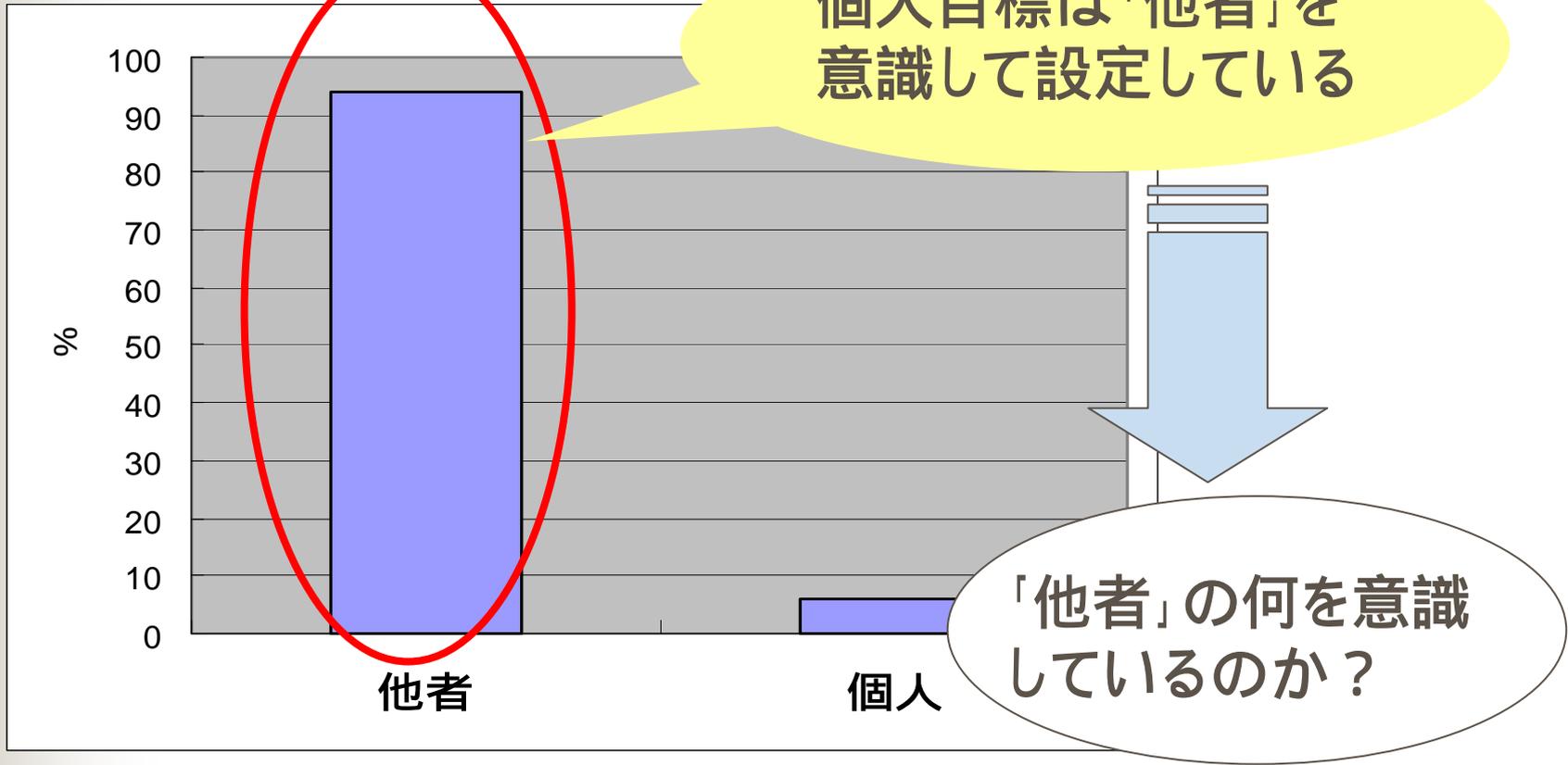
「次の時間にがんばりたいことがあれば書いてください。」

次時に授業がない場合(単元終了後)

全授業が終了後の感想文(自由記述)

5. 分析の視点3 ー 個人の目標設定 ー

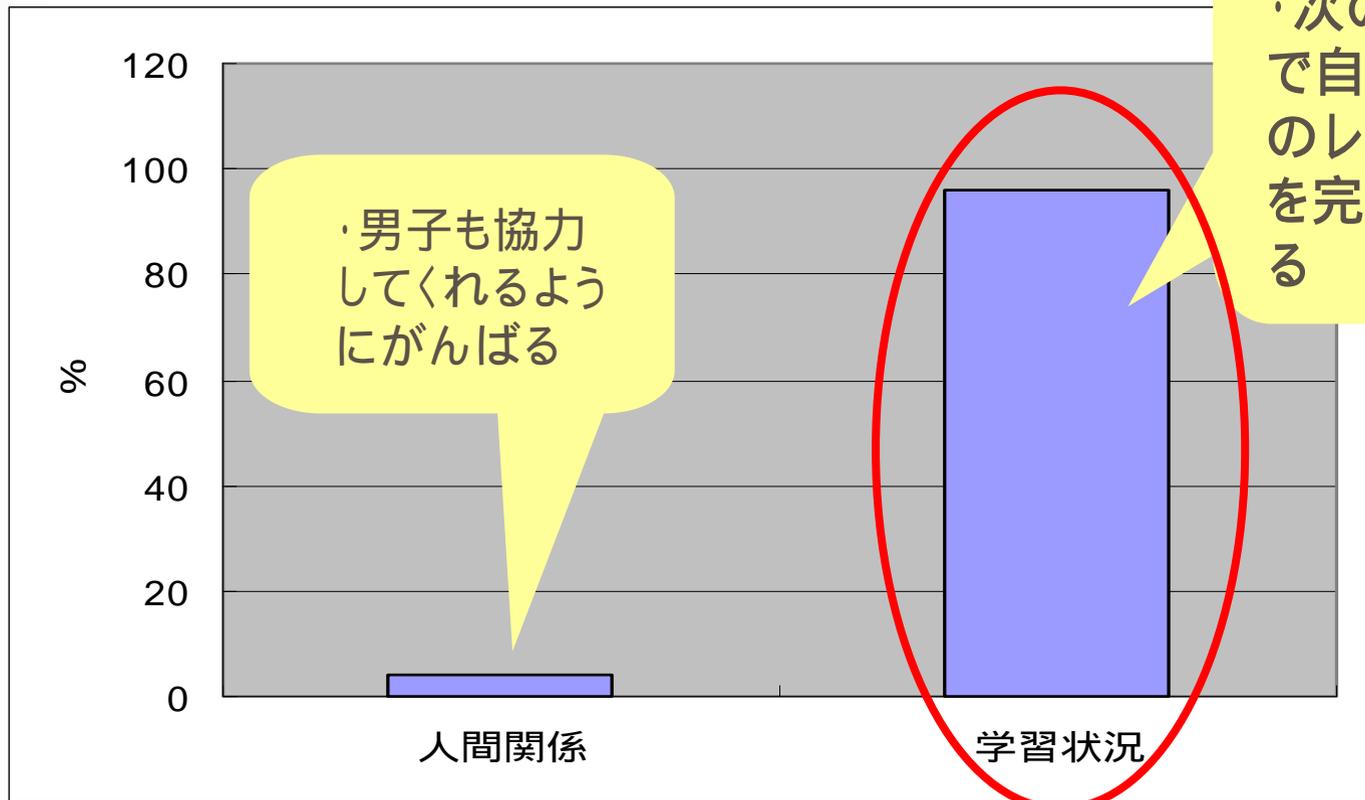
次時に授業がある場合



5. 分析の視点3

— 個人の目標設定 —

次時に授業がある場合



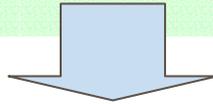
・男子も協力
してくれるよう
にがんばる

・次の時間
で自分たち
のレポート
を完成させ
る

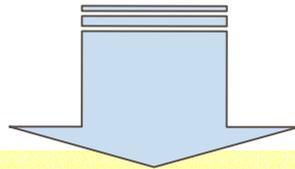
5 . 分析の視点3 ー 個人の目標設定 ー

次時に授業がある場合

子どもたちは自分だけでなく『他者』の「学習状況」も意識することによって新たに個人目標を設定している



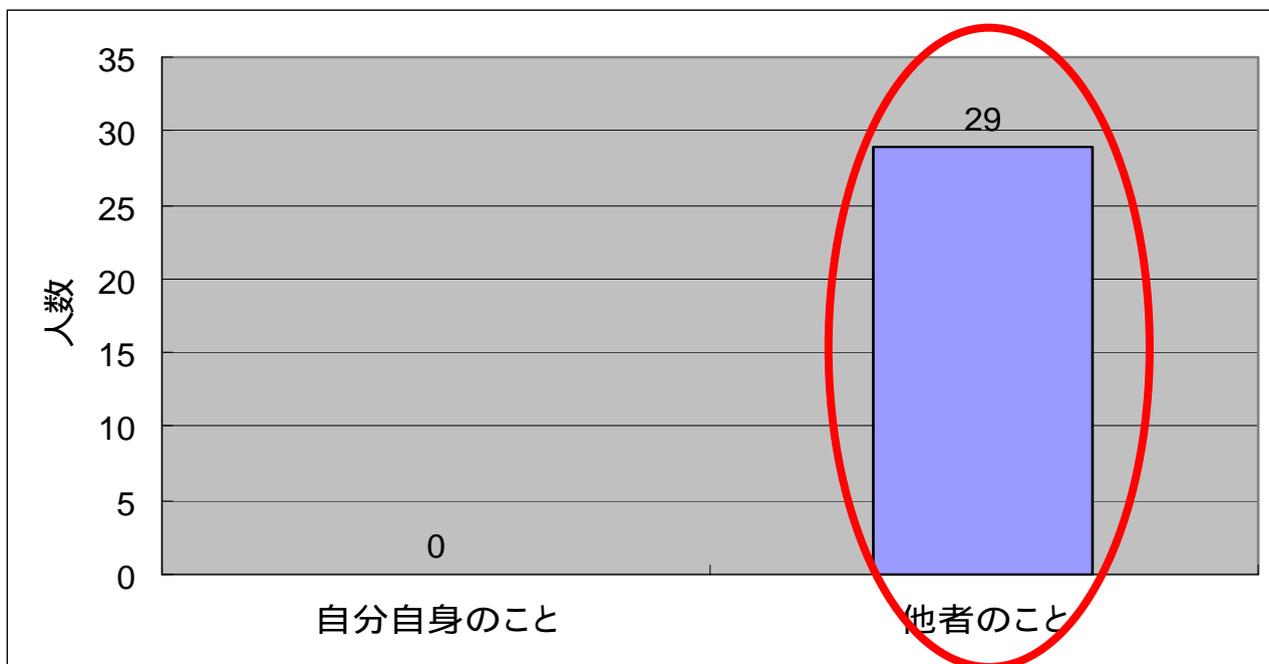
次時の授業でもグループごとに学習するため、単に他者を意識している！？



次時に授業がない場合 ではどうか？

5 . 分析の視点3 ー 個人の目標設定 ー

次時に授業がない場合



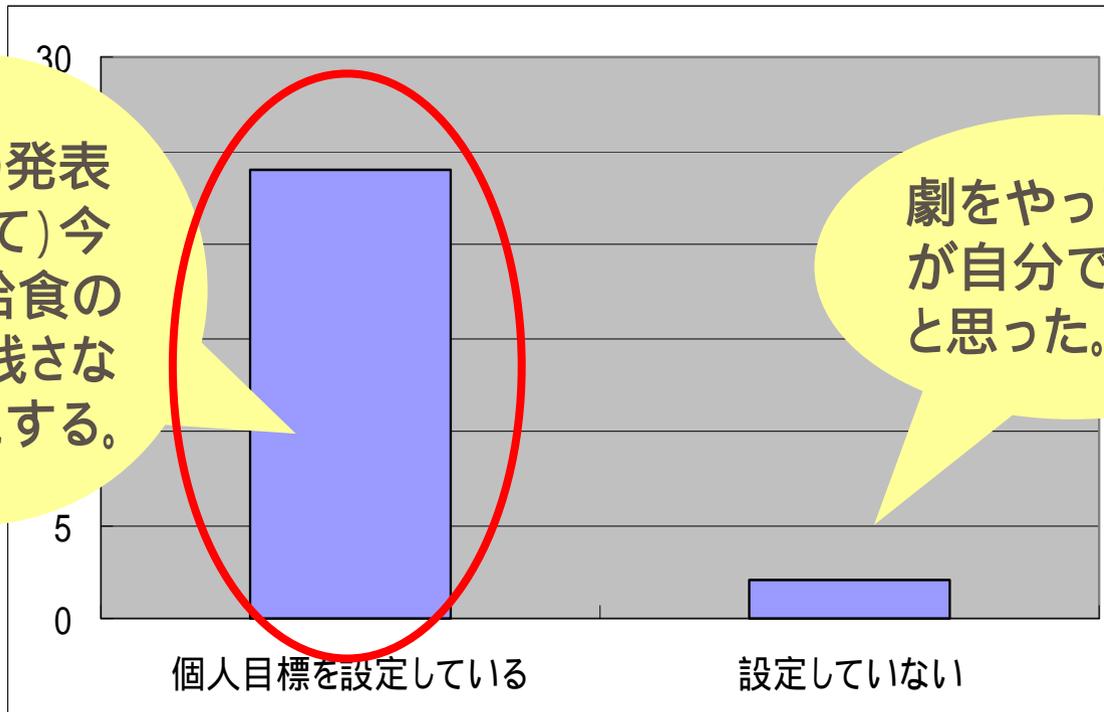
次時に授業がなくても、全ての子どもたちが『他者』の学習内容について記述している

5 . 分析の視点3

— 個人の目標設定 —

次時に授業がない場合

(6班の発表を聞いて) 今後は、給食のご飯を残さないようにする。



劇をやったのが自分でいいと思った。

他者の学習内容を意識することによって、新たに個人目標を設定している

5 . 分析の視点3 — 個人の目標設定 —

次時に授業がある場合

○他者の学習状況を意識することによって、次時に向けた個人目標を設定

次時に授業がない場合 (単元終了後)

○他者の学習内容を意識することによって長期的な個人目標を設定

○授業が終了しても、集団決定した学習目標を意識して個人目標を設定している。

5 . 分析の視点3 - 個人の目標設定 -

< 結果 >

子どもたちは、次時に授業がある / ないに関わらず他者の学習内容・状況を意識することによって、自己の目標設定を行っている。

授業終了後も集団決定した学習目標を意識しつづけている。

6 . 結論

子どもが目標設定に参加することによって目標共有が行われ学習が成立することを明らかにする



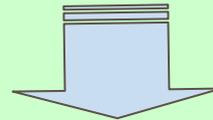
目標設定の場に子どもたちが参加することによって、目標の共有が行われ、その共有によって他者への協力と自己の目標設定が行われる。

7. 今後の課題

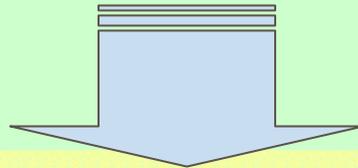
<学習目標を共有するために集団決定>

今回・・・グループで話し合った後、全体で決定

<約15分間要する>



毎回、各教科の単元で行えば授業に支障が出る



より短時間で子どもたちも参加できる目標設定の場を教師がどのように設定していくか。



これで終わります

ご清聴ありがとうございました

ご意見・ご質問
よろしくお願ひします